

発問の型と例その2

発問の型と例

(3) 評価、批判、鑑賞に関する発問

① ある問題－内容、作者の意図（主題、構想、表現）、人物などについて－に対しての自分の感想や意見を自分自身のことばで述べることを求める発問

○ このことについて、あなたはどのように考えますか。

○ このこと（作者の意図など）について、あなたはどんな意見をもっていますか。それはなぜですか。

○ もしもあなたが主人公だったらどう行動するでしょうか。

② ある考えや作品の価値判断を求める発問

○ Bの方がAよりも優れていると考えますか。それはなぜですか。

○ これらのうちでどれが一番よい（好き）ですか。

③ ある問題に関するいろいろな解釈の仕方を判断するように求める発問

○ この問題の解決にはどの方法が最善だと思いますか。また、もっと他の方法はありませんか。

○ この文章は私たちにどういうことを教えてくれますか。

④ 内容を批判することを求める発問

○ この文章で言っている内容と矛盾したり違っていたりする例（反証）はありませんか。

○ ここで述べられている以外の理由（根拠）はありませんか。

○ この内容について、もっとつけ加えるべき新しい情報はありますか。

一般に、授業を構成する要素として、教師と子どもと教材とが考えられますが、発問はその三者を結ぶ扇の要のような役割を果たしています。したがって、教材分析が深く行われれば行われるほど、すぐれた発問が可能になります。受け持ちの子どもの実態について深く理解していればいるほど、それに密着したすぐれた発問が可能になります。

型より入りて型を出でよ～守・破・離～

これから教職に就く人や新卒で教師になりたての人にとっては、いろいろなタイプの授業があり発問の型があることを知って経験を広げることが重要で、それがひいては有効な発問を工夫することにつながります。

発問の自己分析

自分の計画した発問を自分なりに自覚的に分析してみることが大切です。一般的な傾向として、教師の発問が少し多すぎるように感じます。もっと子どもに考えさせる時間、沈黙の時間をとらせた方がいいのにとと思われるときにも、教師が手助けのつもりで発言したり補助的な問いかけをしたりして、子どもの思考をかえってかき回してしまうという光景をしばしば見ることがあります。少数の、それでいて子どもがピリッとするような発問を出し、十分に時間をとって考えさせるというのがいいのではないのでしょうか。